

平成22年6月26日発行(偶数月26日発行) 平成10年5月22日第三種郵便物認可 第20巻第4号通巻113号

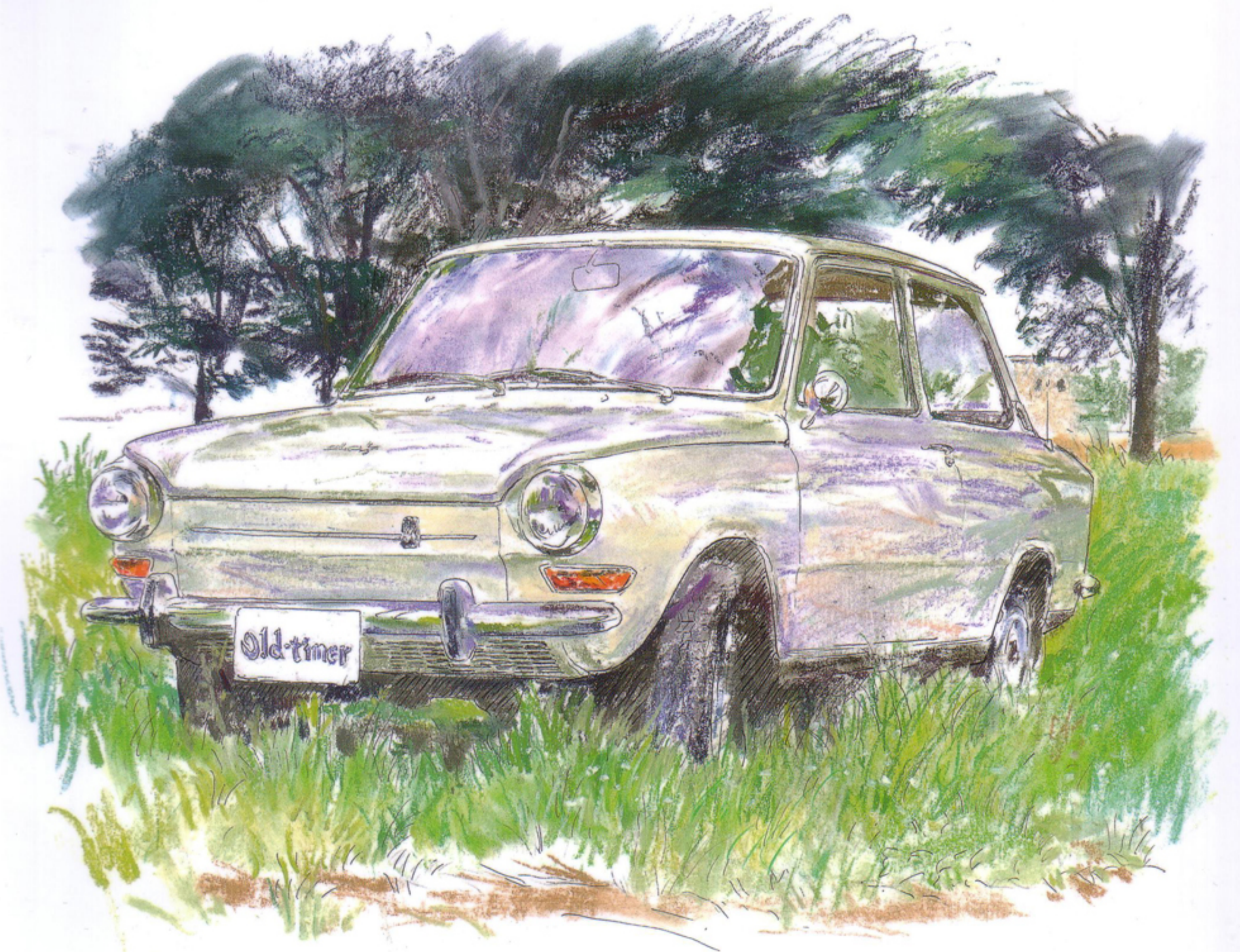
Old-timer

オールド・タイマー

The power source that keeps your classic vehicles running.

113 AUGUST 2010
隔月刊 **8月号**
次号は8月26日(木)発売

発掘された2台の432-R / 蘇ったDAF44と珍車コレクション
謎の新潟モーター商会「趣味人経営講座」
ケルン石塚「カム研磨機を自作する③」 / 三輪ベスパを楽しみ尽くす
ハンダごて王子の「美的クーラー改良術」 / レア車「グランドファミリア」



2010
yui

ぶらり旧車屋探訪

自慢の在庫車拝見

第4回

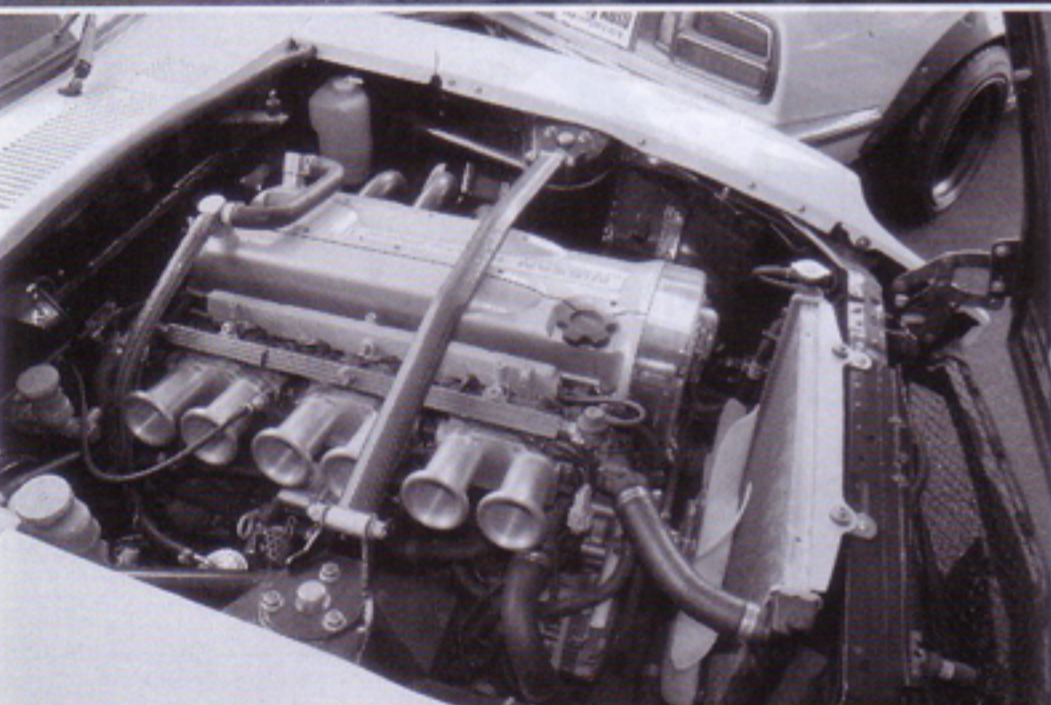
ロッキーオート

〒444-0865 愛知県岡崎市明大寺町字大塚55-31
☎0564-58-7080 Fax 0564-58-7090
営業9:00~20:00 休第2、第4月曜日
http://www.rockyauto.co.jp

各地のイベントでRB型エンジンに換装したカスタムビルドのS30Z、スカイラインで話題の中心となるロッキーオート。速さのみならず快適性も追求し、国産旧車を現行スーパースポーツのように生まれ変わらせる同社の技術と哲学とは？



●ロッキーオートの「フルコンプリートカー」、RB30改エンジンを積む'73年式S30Z。RB30はRB26DETヘッドでツインカム化され、6連スポーツツインジェクション+Vプロでコントロールされる。カムはIN・EXともに300度でポート加工済み。ボディ補強箇所はフロアメインフレーム(60mm角2mm厚角パイプ2本)、サイドシル(15mm角鋼材2本)、フロントストラットケース(ロールバー、3mm厚鋼板)、リヤハッチフロアストラット(3mm厚鋼板)など。これに取り付け足まわりはフルビロアーム、HCR32キャリバー、ローター(フロント側ローターはS2000用)。なお、RBエンジンは単体ではなく丸車で購入。完成車にはエンジンドナー車のシリアルプレートも貼られる。



●オリジナルを基調としながら表面加工で高級感あるダッシュ。エアコンのパネルスイッチも自然に収まっている。パワーウィンドスイッチはオリジナル。クラッチはRB25DET用OSシングルを使うがオペレーションを工夫して軽トラのように軽い。



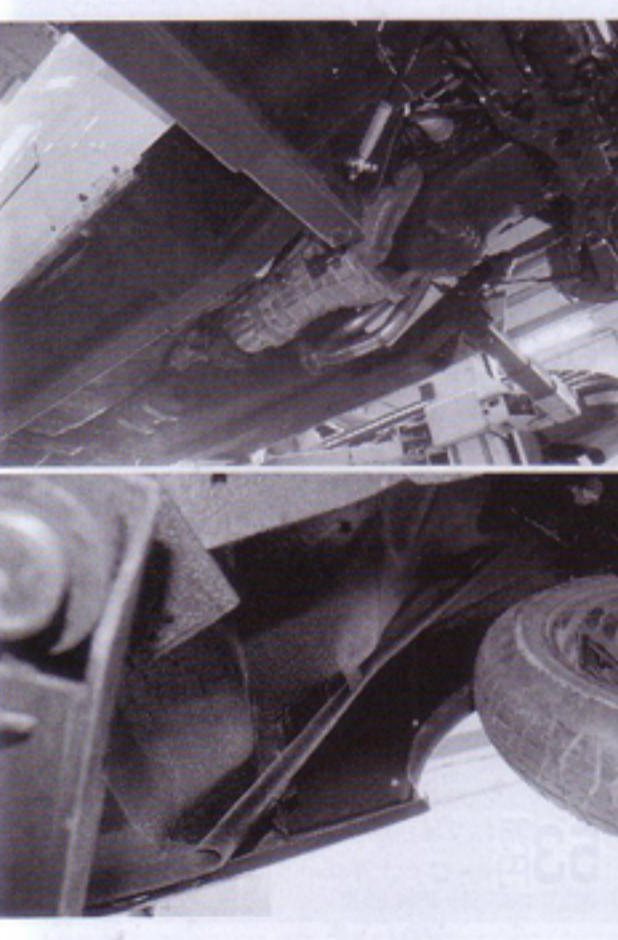
ストレスのない旧車が作りたい

関東・東海地区を中心に各地のイベントに現れる、ただならぬ迫力のS30Z、ハコスカケンメリを見たことのある読者もいるだろう。エンジンルームにはRB型エンジンが収まり、ツインターボのチューニング版では600馬力を謳う。だがロッキーオートはただの「エンジンスワップショップ」ではない。各部の工作の丁寧さ、美しさは荒々しいチューニングカーというよりも、機能美を最大限に引き立ててジェントルに装ったイタリアンエキゾチックカーを思わせる。オリジナルのダッシュボードにオートエアコン、オーディオシステムを収め、本革バケットシート、パワーステアリングのオーダーにも応える。

ボディフレームには徹底して補強がなされ、パイプ製のロアアームの先にはベンチレーテッドディスクとブレンボのブレーキ。ことによってはリヤホイールハウスからマルチリンクサスのアームが覗く。人によっては「ケンメリやS30Zでどこまでやるの」とあきれられるだろう。「ウチは世間離れた特別な店ではありません。決して安いク

ボディ補強の例

●製作中のS30Zでボディ補強の一例を見てみよう。フロアを走るメインフレームを箱形の角パイプで横方向から補強している。ホイールハウス内、ストラットケースからサイドシルにかけて丸パイプが溶接されているのがわかる。



L型チューニングも

「現行車に比べて200〜300kg軽量な70年代車にRBエンジンを積むのだから、ノーマルでも十分に速い。何のストレスもなく路地裏を30km/hで走り、サーキットを200km/hで飛ばせる。さらにお客様のご要望でチューニングすればとてつもないクルマになります」(渡辺社長、以下同)

とても魅力的なZだが、価格を聞けば1290万円という。しかし製作工程を聞けば納得せざるを得ない。

ロッキーオートが製作販売するのはRB型SR20型の換装車、S20型搭載のオリジナルGTR・Z432、そしてL型エンジン車だが、ここでは目玉であるRBエンジン車の工程を見てみよう。使用するのはRB20、25、26、30。オーナーの要望に応じて排気量を決め、NA、スポーツツインジェクション、ターボ、キャブレターを選ぶ。マニュアルかATも選択可能。ボディ補強、足まわりの仕様、エアコン、パワステの装備を煮詰め、予算のすりあわせを行う。

「やはりボディフレームの補強が一番大事。ドンガラにし、板金補修を経てから細かな補

ハコスカは選択肢が広い



●オリジナルのハコスカGT-Rを常時複数台在庫する。L型のノーマル車も販売可能。



●昔からL型にもこだわりがある。「L型でここまでできるか試したかった」という現車は3.1ℓの6連スポーツツインジェクション仕様(72年式)。「L型の荒々しさ、スティックごとインジェクションの乗りやすさを両立し、フレーム補強済み(690万円)。



●これもハコスカHT(71年式)でエンジンはRB25のノーマル。5速ATでエアコン、パワステ、パワーウィンドー付き。女性でもラクに運転できる(698万円)。

新旧フェアレディ



●ロッキーオートの整備工場。常に複数台のクルマがリフトに上がっている。奥上の白いZは現在製作中の車両で内外装はオリジナルに仕上げる。右上の240Zはパドルシフトになる予定。中央はボディ各部にカーボンファイバーを使用した2010年モデル。



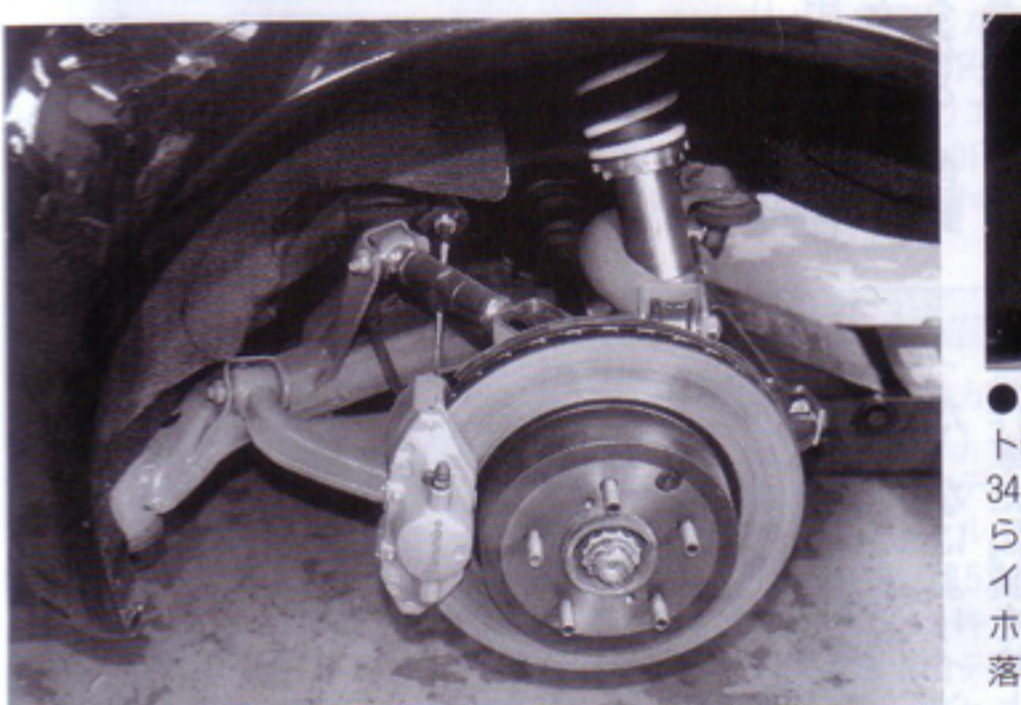
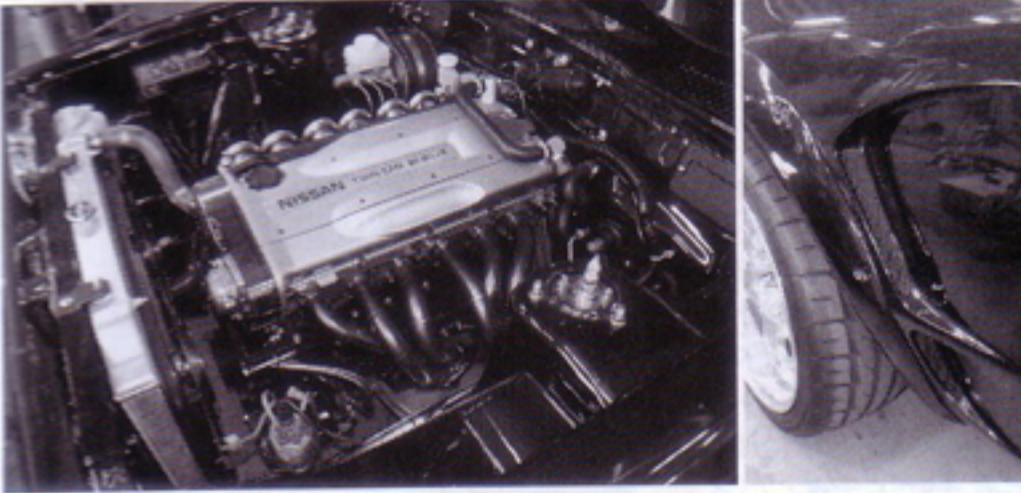
●工場の左奥のリフトに乗っていたフェアレディSRL311にはS14シルビア用のSR20DETエンジンが積まれている。オートマチックミッションでエアコン、パワステ装備のラグジュアリー仕様。522万9000円。



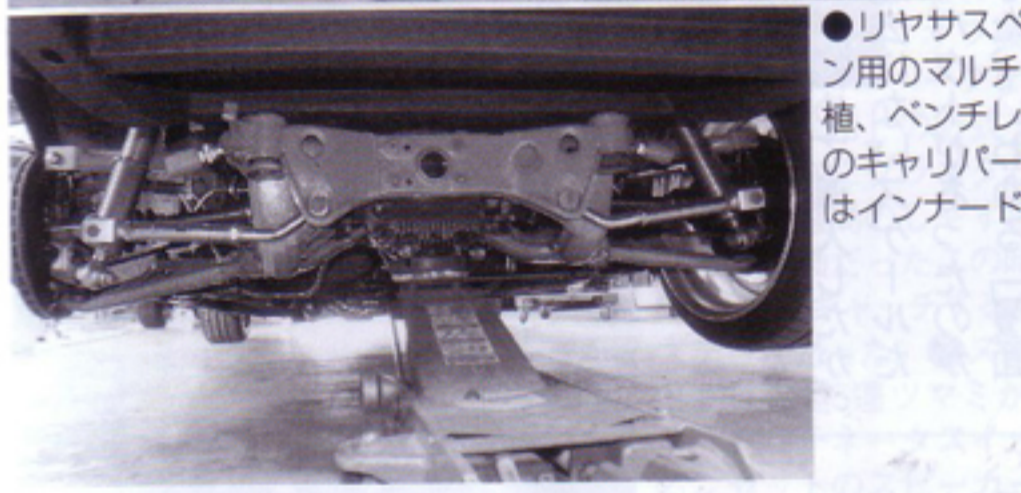
●RB30エンジンのブロックにRB26DETのヘッドを乗せ自然吸気化。吸排気システムはソレックスφ50キャブレターとオリジナルの等長ステンレス製6in1タコ足。エンジン本体を十数cm後方にマウントしフロントミッドシップを実現。エンジンルーム内もパイプ補強が張り巡らされている。

究極のケンメリを目指して

●最終仕上げのち注文主に引き渡されるケンメリハードトップ。エンジンはRB30改26ツインカムヘッドでVプロ制御の6連スロットルスポーツツインジェクション仕様。バルクヘッドからフロアにかけてR33スカイライン用を使って補強している(オリジナルのケンメリ用に比べ格段に材質がよく軽量・強靱という)。またストラットケース背面にも箱形の補強がある。フロントフェンダーのエアアウトレットは板金製作による贅沢な物。



●フロントのナックルストラットはシルビア用。ブレーキはR34用のブレンボ。ハブは4穴から6穴に変更している。大径ワイドタイヤが当たらないようにホイールハウス内の出っ張りを落としてある。



●リヤサスペンションはR32スカイライン用のマルチリンク式サスペンションを移植。ベンチレーテッドディスクにブレンボのキャリバーが付く。パーキングブレーキはインナードラム式になっている。

ただし予算には柔軟に合わせるので、車両・エンジン持ち込みで換装と公認のみという仕事も受ける。ちなみに他車の換装作業も可能。「この前、古いベンツにRBを載せました。パンサーJ72にセルシオのV8とか。今も面白いことを画策中です」。

強にとりかかります。エンジンはまずノーマル状態で搭載してテストし、車両完成後にまたテストを繰り返す。こうして製作する4ケタの「コンプリート車」は年に5、6台ほど。

20年前、ポロポロのハコスカGT-Rを200万円で購入、高額な修理代と維持する苦労に悩んだ経験が「ストレスのない旧車」を作るきっかけになった。確かに旧車を持ち続けられ、整備、チューニング、レストアにかかる費用は馬鹿にならない。それを思えばメンテナンスに手がからず、快適、快速が約束された同社の「コンプリートカー」が支持されるのもわかる。

もともと渡辺さんはオリジナル車を否定するわけではない。シヨールームには美しいハコスカGT-Rが3台飾ってある。L型のインジェクション仕様車も多く製作。安価な中古のコンプリートカーも在庫する。「この前130万円のノーマルハコスカを東京まで自走で納車しました。楽しかった」。心底クルマが好きなのである。

東名岡崎インターから5分



●県道48号沿いの大きなシヨールームは旧車ショップというよりはディーラーの雰囲気。スカイライン、フェアレディZの在庫は150台以上。



●「今後はVQやV12にもチャレンジしたい」と語る渡辺社長(中央)とスタッフの向田さん(右)、森さん(左)。